

令和6年度

運営に関する計画 【中間評価】

大阪市立瓜破西中学校

令和6年11月



大阪市立瓜破西中学校 教育全体構想図

校訓 希望あれ、こころあれ、学びあれ

〈希望あれ〉望ましい未来を創る。自主、創造の精神を養い、明るい人になろう。
 〈こころあれ〉まごころを通じる。自他を尊重し、正しい判断力と責任を持って行動できる人になろう。
 〈学びあれ〉学びの中につとめはげむ姿をうつす。真理を求め、努力を怠らず、すすんで他と協力できる人になろう。

学校教育目標

一人ひとりの生徒に、生きて働く学力を身につけさせ、これからの国際社会を生き抜くための力を育成することをめざし、その根本たる人権尊重の精神を具現化できる豊かな人間性をはぐくむことを目標とする。

めざす学校像

明日も行きたくなる学校
 トイレのきれいな学校
 来訪者に感動を与える学校

めざす生徒像

自他の尊重を行動で示せる生徒
 自らの力で考え発信できる生徒
 心も体もはつらつとした生徒

めざす教職員像

生徒の思いや行動を
 受け止められる教職員
 自ら学ぶ姿勢の教職員
 助け合い支えあう教職員

令和6年度重点教育目標

不登校生徒と保健室来室生徒(心因性)の減少をめざす。

【指標:一か月の欠席者及び保健室来室者数(心因性)を昨年度の同月より減少させる】

- カウンセリングマインドに基づいた生徒対応を実践する。**継続**
- 生徒自らが発案計画実践できる取り組みを計画する。**継続**
- 校内の美化活動に重点的に取り組む。**継続**
- 「今週のできごと」を継続実施する。**継続**
- 可能な限り、給食を実施する。**継続**
- ホームページ掲載記事を充実させる。

生徒がより良い学校生活が送れるよう、教師力向上(授業力・指導力)をめざす。

- 学期に1回ずつ、それぞれ1つの学年集団が研究授業を実践する【年間3回】。**継続**
- 時期相応なICT活用技術の研修を年間を通じて3回おこなう。
- 【《瓜西中の未来を語ろう》会】を発足させ、教職員のレベルアップを図る。

生徒一人ひとりの学力の向上をめざした、授業実践に取り組む。

- 1・3年生の朝学習を個々に応じた、デジタルドリルナビマ・教科書音読・NIEドリル・コグトレで実施する。**継続**
- 2年生の朝学習において、朝日デジタル新聞を活用した《視写》を実施可能な曜日でおこなう。
- 国語・数学・英語における習熟度別分割授業を充実させ、特に基礎コースのレベルアップを図る。**継続**
- 全教科を通じ、授業の振り返りを授業ごと(単元もしくは教材ごと)に150字程度の作文を書かせる。**継続**
- 読解力・表現力のレベルアップをめざした授業実践(音読、ペア&グループ学習、プレゼン、探究型授業)をおこなう。**継続**
 [上記の効果検証のために、RSTを第1学年の初期と第2学年の後期に実施し、その成績を比較検討する]

学校総体としての校内の取り組みや行事を実施し、体系化・系統化した組織を構築する。

- 3年間を見通して作成した人権、障害者問題、在日外国人、キャリア教育、の年間計画を令和8年度まで一貫した計画で実施する。
- 3年間を見通して作成した学年行事の年間計画を令和8年度まで一貫した計画で実施する。
- 作成した運動会・文化祭における年間計画を令和8年度まで一貫したプログラムで実施する。

上記計画を実施する中で、大きな課題が見られた場合は変更もあり得る。

幼小中連携及び地域連携を充実させることによって、地域全体で生徒を育てる感覚を醸成する。

- 瓜破北幼稚園児に対する【読み聞かせ】ボランティアに取り組む。
- 瓜破北幼稚園児を運動会等に招き、交流を深める。**継続**
- 校区両小学校への出前授業と両小学校を招いての部活動体験を実施する。**継続**
- 地域人材を最大限活用し、高齢者介護学習・地域防災学習などのゲストティーチャーを積極的にお招きする。また、校内植栽ボランティアなどを積極的に招聘する。**継続**

大阪市立瓜破西中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

※はじめに※

令和5年度に『大阪市立瓜破西中学校教育全体構想図(瓜破西中学校グラウンドデザイン)』【前頁を参照】を策定した。そのため、令和4年度から7年度までの中期目標を変更し、概ね令和5年度から8年度までの目標として改めて設定する。

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

落ち着いた状態で日々の教育活動は展開できている。教職員も授業研究に余念がなく、行事や特別活動の取り組みに対しても熱心である。また、家庭訪問等の保護者対応にも努めている。ただし、次の点において課題がある。

ア) 一部に、日常的な校則違反及び日常生活が乱れている生徒がみられる。保護者の協力も得にくく、指導の効果もなく改善の見通しが立たない。

イ) 不登校生徒が多く、対応に苦慮している。令和5年度の年間 30 日以上欠席者は、1年10名, 2年14名, 3年16名の合計40名で全体の10%を超える。中には、100%欠席で、入学式から登校していない生徒も存在する。

ウ) 各種テストにおける得点力に多くの課題がみられる。令和5年度の全国学力学習状況調査の平均正答率では、全国 55.5%, 大阪府 54.3%に対して本校は 47.7%であった。チャレンジテスト(チャレンジテスト plus を含む)の平均点では以下のような結果となった。

	1 年		2 年		3 年	
	府(市)	本校	府	本校	府	本校
国語	60.8	56.6	66.8	63.9	62.1	59.0
社会	56.0	57.5	54.1	51.2	54.7	52.5
数学	54.7	53.6	52.2	54.5	52.2	52.4
理科	62.2	54.9	40.3	36.7	47.6	45.6
英語	64.1	59.0	57.1	56.0	54.2	50.2

エ) 校内体制として、生徒が主体的に取り組める活動になっているとは言い難く、まじめには取り組もうとするものの“指示を受けてから動く”といった生徒が多くを占める。

オ) PTAとの連携は活発とまでは言い難い。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・不登校生徒の減少をめざし、令和8年度末には6%未満までとする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・学力向上をめざし、令和8年度には【全国学力学習状況調査】における各教科の得点を全国と、【チャレンジテスト】では各教科の得点を大阪府と、【チャレンジテスト plus】では各教科の得点を大阪市と、同じレベルにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・各教科の授業において、ICT機器を活用した授業を令和8年度には年間80%以上にする。
- ・「教員の時間外勤務時間の状況について」中、「3 貴校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率」の「基準1」を、令和8年度1月度には45%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・中学生チャレンジテストにおける国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く〕
- ・年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和6年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ・年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。 ・年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 ・カウンセリングマインドに基づいた生徒対応を実践する。	B
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 ・生徒自らが発案計画実践できる取り組みを計画する。	B
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】 ・「今週のできごと」を継続実施する。	B
<<①②③の共通指標>> 一か月の欠席者及び保健室来室者数(心因性)を昨年度の同月より減少させる。	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・日ごろから、多くの教員で常に生徒の様子を見守り、何かあったときには生徒の声を丁寧に聞き取って対応することを心がけている。 ・毎週末の「今週のできごと」、毎日の「ミマモルメ」のコメントなど、いろんな相談機能を活用して、いじめや悩みごとなどの早期発見に努めている。 ・保健室の来室者数(心因性)は、4・5・10月が増加して、6・7・8・9月は減少している。全体としての割合は微増している。多くの教員で生徒の様子を見守り、丁寧に話を聞き続けることで、来室者数(心因性)の減少を目指していきたい。 ・昨年度と今年度の欠席者数を比較すると、特に6月以降で大幅に減少している。母集団が変わっているので単純には比べられないが、本校の教育活動のひとつの成果として受け止めてよいと考えている。

・朝の挨拶運動など、生徒が主体となって活動をおこなっている。ただ、主体となる生徒が限られているので、今後は少しずつ広げていきたい。

・3年生の修学旅行に際しては、生徒が主体となって修学旅行実行委員会を発足させ、修学旅行内のルールを決めたり、学年レクリエーションの企画運営に携わったりするなど、有意義な修学旅行の実現に向けて積極的に活動した。

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和6年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・中学生チャレンジテストにおける国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。 ・中学生チャレンジテストにおける数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・国語・数学・英語における習熟度別分割授業を充実させ、特に基礎コースのレベルアップを図る。	C
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・全教科を通じて授業の振り返りを授業ごと(単元ごともしくは1教材ごと)に150字程度の作文を書かせることによって、書く力を伸ばす。	B
取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・読解力・表現力の向上をめざした授業実践(音読, ペア&グループ学習, プレゼン, 探求型学習)をおこなう。	B
指標: RST(リーディングスキルテスト)を第1学年の初期と第2学年の後期に実施し、その成績を向上させる。	
《①②③の共通指標》 ・中学生チャレンジテストにおける国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。 ・中学生チャレンジテストにおける数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>・国語、数学、英語の分割授業については、国語科は単純分割授業をおこなった。数学科と英語科では教員の欠員があり、分割授業をおこなうには厳しい状況であった。長期間欠員が出たままの状況である英語科は分割授業がおこなえていない。数学科は、教員の補充があったときに習熟度別分割授業をおこなった。</p> <p>・授業の振り返りとして150字程度の文章を書かせる取り組みはおこなっているが、そのことで生徒たちの書く力が伸びたかどうかを判断するためには、また別の検証が必要である。</p> <p>・教科(教材)の特性にもよるが、音読、ペア&グループ学習、プレゼン、探求型学習などの実践を積極的におこなっている。</p> <p>・1年生は7月にRSTを実施した。2年生は3学期に実施する予定である。</p> <p>・チャレンジテストは、3年生(9月実施)はすでに結果が出ているものの、1・2年生が未実施(1月実施)なので、年度末にはその結果も踏まえて年度目標の達成状況を判断する予定である。</p>
次年度への改善点

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和6年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く〕 ・年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ・時期相応なICT活用技術の研修会を年間を通じて3回おこなう。	C
指標: 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く〕	
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・退勤時刻17:30までの教職員用「ゆとりの日」を月に4回確保する。	C
指標: 年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・ICTの研修はこれまで2回おこなった(10月末時点)。3学期に3回目を実施する予定である。生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、現時点で1日(双方向オンライン学活をおこなった9月12日)だけである。11月現在、学習者用端末の利用率は、ほとんどの日が6～7割程度である。昨年度は4割程度だったので、端末を利用する機会が増えているのは間違いないが、年度目標の達成には程遠いのが現実である。 ・「ゆとりの日」は月4回の設定をおこなっているが、そのことが必ずしも退勤時刻を早めることにはつながっていない現状がある。10日以上の年次休暇を取得した教員はまだ18.8%である(10月末時点)。教員の欠員が増えたことで、簡単に「休む」と言い出しにくくなっていることもマイナスの要因となっていると思われる。

次年度への改善点